

# 新潟日報

## U・Iターン「挑戦を」

### 佐渡の酒蔵専務ら 本県の魅力語る

ネスパスでセミナー



U・Iターンセミナーで自らの体験を語る尾畑留美子さん(右)と聞き手の石原正康さん  
15日、東京・表参道

「にいがたU・Iターンセミナー トーク&リラックス」が15日、東京・表参道の新潟館ネスパスで開かれた。佐渡市の尾畑酒造専務の尾畑留美子さん(48)が、新潟市西区出身の編集者で幻冬社専務の石原正康さん(51)とトークを繰り広げ、自らのUターン体験と本県の魅力を伝えた。

県が主催した。U・Iの酒蔵にUターン就職した。Uターンを考えている社会人や学生を対象に、リラックスした雰囲気を経験者の話を聞いてもらおうと初めて開き、42人が参加した。

尾畑さんは佐渡市出身で慶応大卒業後に都内の映画会社に勤務し、1995年、29歳の時に実家を離れて、日本酒の輸出など

石原さんの軽妙な問いに、尾畑さんは「長く続いた仕込み蔵が気になり戻す決意をした」「佐渡の子どもたちに小さな会社でも広い世界を相手にできることを見せたい」と思い、日本酒の輸出など

後半は日本酒を試飲しながらのリラックスタイム。二人のジョークの応酬に会場から笑いも上がった。最後に尾畑さんは「どこで何をするのも大事なが、何をどこまでするか、ということが大事。いろいろな可能性を閉じずに挑んでほしい。新潟県もぜひその選択肢に入れて」と訴えた。

Iターンを考えているという都内の男性会社員(43)は「地方の魅力がすぐイメージでき、良かった」と話した。